

## 週刊ダイヤモンド 今週の逸冊

北村行伸

平成19年3月17日号

### 「遠距離交際と近所づきあい—成功する組織ネットワーク戦略」

西口敏宏(著)

NTT出版 2007年1月30日刊

本書は世界中の製造業におけるサプライヤー関係の現地調査を過去20年間にわたって、精力的に行ってきた著者が、スモールワールド理論に刺激を受けて、著者の経験をもとに書き下ろした、近年希に見る刺激的な経営学・組織論の研究書である。経営者に限らず、一般読者も十分に楽しみ、かつ学習できる内容になっている。

とりわけ、評者がお薦めしたいのは、中国からはるばるイタリアにまで飛び出した温州人達のネットワークの形成とその意味をスモールワールド理論から説き起こした第1章、アイシン精機の火災事故から直ちに立ち直ったトヨタの下請け企業集団の結束力と問題解決能力について熱く語っている第4章、イギリス国防省が装備調達をいかに民間のベストプラクティスを吸収して効率化したかを解説した第8章、そして、日本の防衛省の防衛調達過払い事件に端を発する防衛調達改革に関与しながら、日本政府の改革問題にまで踏み込んだ第9章である。

何らかの問題が起こったときに、それをうまく解決する方法は、近所の仲間の助けと、遠く離れたところにいる専門家の協力にあるだろう。近所づきあいだけでは、新しい発想は生まれてこないし、でたらめに助けを求めても、本当に解決方法を知っている人に出会う確率はかなり低いだろう。遠くの専門家を探す方法は、偶然に頼るのではなく、方向性を持った探索に基づくべきであろうし、近くの友人とも信頼関係が出来ていなければ、本当に困ったときの助けにはならない。そして現実には友達の友達が問題をいともたやすく解決してくれたりする。これを「世間は狭いね」ということかたづけるのではなく、その背景には、信頼に裏打ちされた「近所づきあい」と適度にランダムな「遠距離交際」の柔軟性の高いネットワークが織り込まれた「スモールワールド」があることが明らかにされてきたのである。

著者の切り開いたのはスモールワールド理論家の描いた世界を遙かに超え、現実に裏打ちされた社会科学の豊穡かつ深遠な新世界である。お勧めの逸冊である。